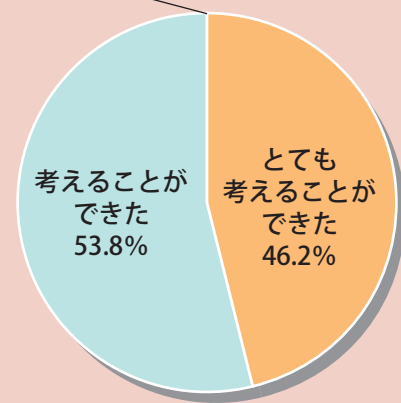


事業を実施して

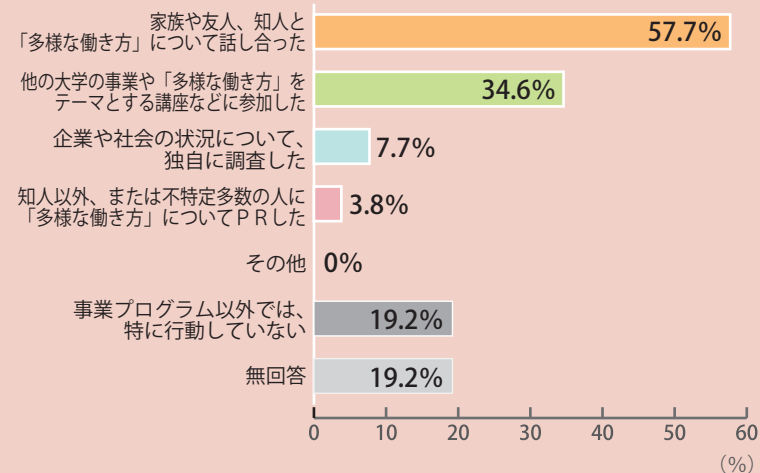
今回の事業を実施して、あなた自身が、「多様な働き方」について考えることができましたか？

考えることができなかった0%
まったく考えることができなかった0%



(今回の事業で企画・運営を担当した学生を対象 回答者：3 大学人 26人)

今回の事業を通じて、事業プログラム以外で、「多様な働き方」をテーマに、何か行動することがありましたか？（複数回答）



卒業してからのライフステージ。 女性の多様な働き方について 大学生たちが考えてみました!

就職までは考えているけど、その先は…。

結婚や出産、育児など、これからのライフステージで

自分らしく働き続けるためには、何が問題で何が必要なんだろう？

このような課題に関わる研究活動やイベント、フォーラム・シンポジウムを大阪の大学生たちが実施しましたので報告します。

広く市民・事業者のみなさまにも考えていただくきっかけになれば幸いです。

大学コンソーシアム大阪について

大学コンソーシアム大阪は、大阪府内等の44大学の相互連携を深めながら、地域社会と協力し、地域社会への貢献をめざしています。平成19（2007）年8月に大阪市との間で「連携協力に関する包括協定」を締結したことを機に、平成20（2008）年2月に新たに地域連携部会を設置し、加盟大学間における連携により、地域貢献の具現化を進めています。

今回の「若者のためのライフデザイン支援事業」も地域連携部会の活動の1つとして、大阪市からの委託により、加盟大学の教員と学生たちが考え、実施しました。

このプログラムの内容をお知らせすることによって、今後、自治体や経済団体、地域の皆様と“協働して取り組める活動”等の取り組みにつなげていきたいと考えています。

本プログラムのご相談等については、大学コンソーシアム大阪事務局までご連絡いただければ対応させていただきます。



特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

電話番号：06-6344-9560 FAX：06-6344-9561

メール：info@consortium-osaka.gr.jp

ホームページ：http://www.consortium-osaka.gr.jp/

事業名称：若者のためのライフデザイン支援事業

実施事業者：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

事業期間：平成26年9月～平成27年3月

事業テーマと実施大学（大学コンソーシアム大阪会員大学からの公募により選定）

知っておきたい
女性の活躍できる生き方
一生涯の“女子力”を
サポートします



大阪女学院大学・
大阪女学院短期大学

結婚・出産・子育てしても、
仕事を続けて活躍したい！
社会人の先輩に学ぼう！



大阪府立大学

ワーク・ライフ・
キャリア開発・プロジェクト
幸福なライフステージへの
ホップ・ステップ・ジャンプ！



大阪経済法科大学

実施概要

知っておきたい女性の活躍できる生き方 ～生涯の”女子力”をサポートします～

大阪女学院大学
大阪女学院短期大学



実施内容

学生たちの企画・運営により、若者層が学び、考える機会を設けた。

■第1回「生活形成及び社会貢献としての職業選択」(平成26年11月23日実施、72名の高校生が参加)

待遇や手当など企業の特徴を知ったうえで就職を選択することができるように、会社選びから介護まで一つのストーリーとするゲーム形式で会社選びから始まる人生設計を疑似体験した。



■第2回「女性の活躍と出産・育児、男性の育休制度」(平成26年12月6日実施、63名の高校生と3名の大学生が参加)

出産や育児は女性の役割とされる価値観がまだ社会に根強いことから、産休・育休の制度をクイズ形式と講演により学び、考えた。

■第3回「人生中盤から後半期に訪れる危機としての家族介護と就労維持」(平成27年1月10日実施、94名の高校生と1名の大学生が参加)

「介護」についての基本的な知識を学び、介護に必要な社会資源を考えるため、個人が持つ介護のイメージ、知識を確認しながら、クイズ形式と講演により学び、考えた。



ねらい

若年層の女性を中心に、これからのライフデザインを思考するために、

- ①自身の生活形成及び社会貢献としての職業選択
- ②家族形成としての出産・育児
- ③人生中盤から後半期に訪れる危機としての家族介護と就労維持

について焦点を絞り、これら女性の社会参画に関する重要な3項目について情報を提供し、参加者とともに考えた。

効果

- 産休・育休、介護に関する事柄については、まだまだ女性の仕事や問題として社会の中で扱われていることを、参加者全員で共有することができた。
- また参加者自身が、制度について誤解していたり、間違った認識を持っていることに気づいてもらうことができた。
- 正確な情報や知識を得ることが、女性が活躍していく上で、重要であることを理解してもらうことができた。

女性の人生において分岐点となる会社選び・産休・育休・介護についてゲーム形式で学ぶことで、高校生を中心とした若者に関心を持ってもらえました。



大阪経済法科大学 ワーク・ライフ・キャリア開発・プロジェクト 幸福なライフステージへのホップ・ステップ・ジャンプ!



実施内容

2つのテーマからなる学生たちの企画事業について、若者層が学び、考える機会を設けた。

■テーマA「大学生が理想とする生涯設計を実現するための働き方とは」

ワーク・ライフ・バランスについて考え、大学生の視点から「女性にとって幸せな働き方」(男子学生には女性に求める働き方)に関する意識調査(アンケート)を実施し、女性が無理なく仕事を続けるために必要なサポートについて事例を研究し、学生間で意見交換しながら考えた。その結果を発表し、社会人と交流するフォーラムを開催した。(平成27年2月9日実施、学生39名、一般15名、合計54名が参加)

■テーマB「職場におけるワーク・ライフ・バランスの配慮と経営改善効果」

最近の経営学研究では、企業業績の向上には、顧客の満足度向に加え、従業員の職場に対する愛顧も重要であることが明らかになってきていることから、大阪市内で働く女性や企業、専業主婦を招いたワークショップを2回(12月18日、1月20日)開催し、職務そのものの性質、職場環境などがもたらす経営改善効果との構造的な因果関係と影響力の強度について広角的に分析した。(平成26年12月～平成27年1月実施、合計71名の学生が参加)



ねらい

女性のライフステージに合った理想的な働き方について、学生自身が考え、若者の感性を活かして企画し、また同世代に向けた事業を実施し情報発信することは、これからの社会を担う実施側の学生と参加学生の両者にとって男女共同参画の啓発に非常に有益であると考えられ、その効果を高めていく。

育休や産休、リフレッシュ休暇などが、企業の経営改善にも影響していることがわかりました。



効果

- 将来、家計を支えるという存在になり、地域や社会に出た時の設計図(キャリア)について学ぶことができた。
- 若者たちに向けたポスターやアンケート票を考えることにより、チームメンバーとの意見交流が活発になり、様々な切り口からの企画案が出された。

結婚・出産・子育てしても、仕事を続けて活躍したい! ～社会人の先輩に学ぼう!～ 大阪府立大学



ねらい

日本では多くの働く女性が、結婚・出産・育児を機に仕事をやめている。主な原因は以下の2点。

- ライフステージに直面して初めて、自らのライフデザインを考えること。
- 産休・育休の制度はあるが、利用可能な環境が整っていないこと。

大学のキャリア支援は就職活動における内定獲得に重点が置かれ、その後を見据えたライフデザインを考える機会がないことから、本事業によって、学生の手で学生のためのライフデザイン支援を行った。

実施内容

本事業に参加する学生にプログラムの内容が徐々に自身に近づくような構成にすることで、ライフデザインについて考える機会とした。



講演会

①IRISによる話題提供【妊娠・出産・育児期の働き方の現状を知る】

女性のライフステージ(妊娠・出産・育児)における働き方の日本と世界の現状の違いについて調べ、発表した。

②パネルディスカッション【疑問の解決と問題意識の向上】

様々なライフステージに直面しながら働いている人や、働く女性の支援を行う団体・企業の方をパネラーとして招聘し、就職活動では聞けない生の声や失敗談を聴くことにより、ライフデザインを身近な問題として考える機会とした。

■第1回ワークショップ【自分の「働くことへの価値観」や色々な働き方を考える】
少人数のグループで社会人と対話することで、「自分にとっての働くとは何か」を明らかにした。

■第2回ワークショップ【自分自身のライフキャリアについて考える】
ゲーム形式のワークショップを通じて、5年後10年後のライフイベントとキャリアを考えた。



効果

- 学生たちが女性のキャリアの現状を知って、将来自分の働き方を身近に考える機会を提供できた。
- 男子学生の参加によって、「女性の活躍促進」が男女ともに働き方・生き方の課題であると参加者に共有された。
- ワークショップの実施によって、その後の参加学生の具体的なアクションプランにつなげていくことができた。

たくさんの考え方・働き方があることを知り、将来のキャリアプランを前向きに考えることができるようになりました。

